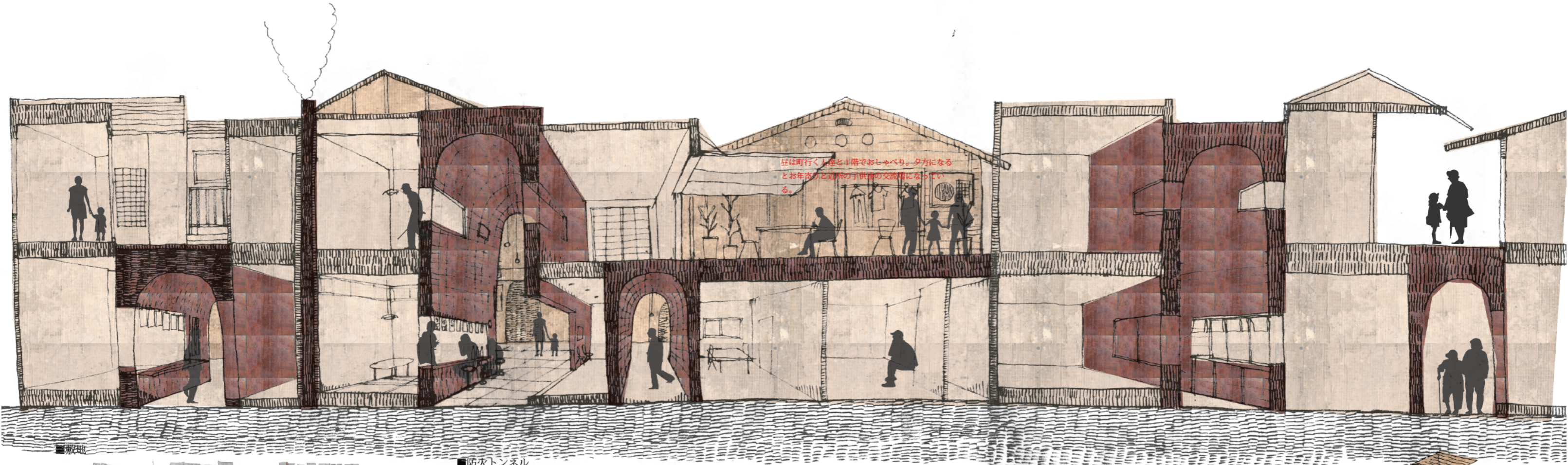


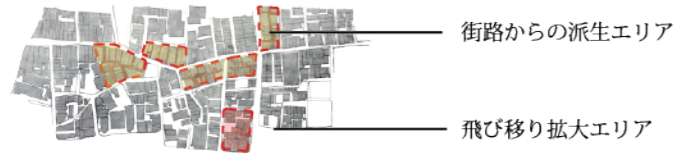
銅板トンネルが紡ぐ町

木密の風情を残しながら、防火トンネルによって深い味わいを重ねていく。インフラ整備とオープンスペースを確保しながら、木密が時間をかけて地域と繋がるための方法を考える。



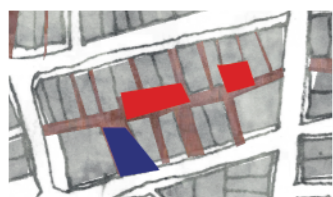
大阪市鶴橋周辺に残る木造密集地域。商店街周辺にはお店も集中しているにも関わらず、場所が離れるにつれて孤立化している状態になっている。

■防火トンネル設定エリア



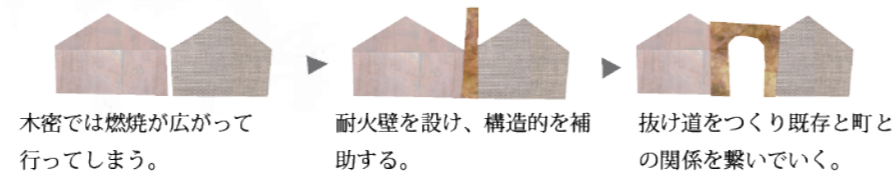
商店街に派生するように、耐火壁空間をのぼす。エリアの持つ特徴をひとつひとつ繋ぎあわせていき、町に訪れた人・住人のコミュニティの拡大をする。

■インフラ整備とオープンスペース確保



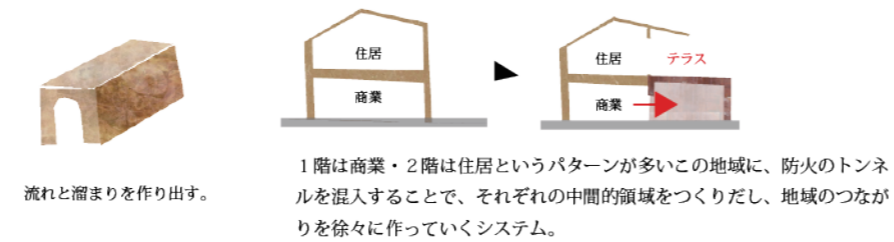
各エリアごとに、住民のための広場・町の広場を設ける。住居に囲まれた部分は住民のくつろぎのスペース、道路に面する部分では、通行人が利用できる開けたスペースをつくる。

■防火トンネル

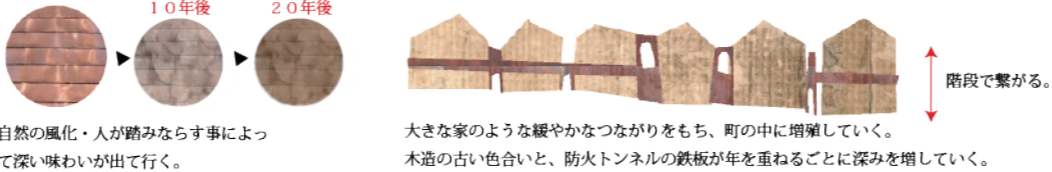


木密では燃焼が広がって行ってしまふ。耐火壁を設け、構造的を補助する。抜け道をつくり既存と町との関係を繋いでいく。

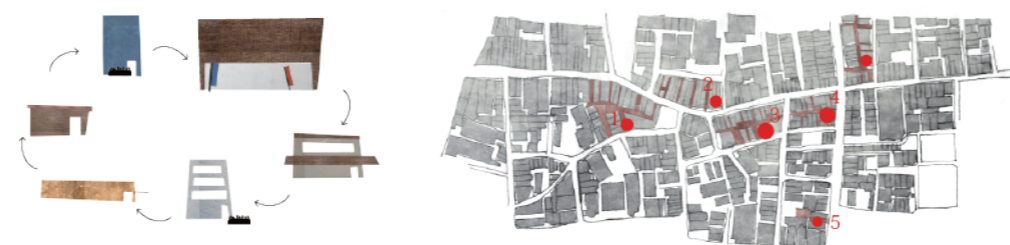
■トンネルの挿入によってリノベーションされる木密



■銅板のトンネル



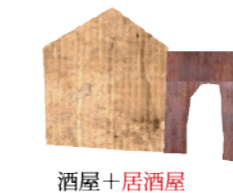
■トンネルによって各主要スポットの接続を行ない地域全体に流れをつくりだす



店先で職人が手作りをしているのが見える。中に入って直接交渉しながら購入することもできる。土日はギャラリーが行なわれ学生で賑わう。



昼間は惣菜屋。夕方になると屋台も現れ、会社帰りのサラリーマンと、買い物をする主婦で賑わう。



提灯がかり、夕方ごろから一杯呑み屋が開かれる。仕事帰りのOL・サラリーマンに人気のスポット。



1階は本屋、2階はブックカフェ。テラスでお茶を飲む事ができる。トンネルの中では古本市が開かれており、若者があつまるスポット。

